

第 11 回区民車座集会意見交換内容

※ 読みやすさ等のため、文意を損なわない範囲で、重複表現、言い回しなどを整理しています。

- 1 開催日時 平成 26 年 12 月 8 日（月） 午後 6 時半から午後 7 時 45 分まで
- 2 場所 高津区役所保健ホール
- 3 参加者等 参加者 18 名、傍聴者 8 名
- 4 概要

（１）市長挨拶

皆さんこんばんは。今日もお集まりをいただきまして本当にありがとうございました。司会者から言いましたように第 11 回目ということで、2 巡目になっております。毎月 1 回各区を回らせていただいて、市民の皆様から様々なお声を頂いております。全市的な課題もあれば、各区の特徴的なご意見ですとか、あるいはこれまで市長への手紙で意見いただいたんですけどもそれでは納得いかないからもう一回面と向かって話をしたいという方も、様々な方がいらっしゃいます。今日はいろんなテーマでお話されますので、ご自身のご意見だけでなく、この地域にこういう課題もあるのかなということを共有できるいい場所にもなっていると思っています。ぜひ建設的な議論ができればなと思っていますので、よろしくお願い致します。

（２）意見交換

A こども・健康福祉について

森田さん：子母口から来ました森田といいます。よろしくお願いします。市長と同じ昭和 47 年生まれで子育て世代なんですけど、学童保育について意見というか質問させていただきます。

放課後児童健全育成事業設備及び運営に関する基準ということで一度こちらにも来たんですけど、お話だと、今わくわくプラザ、学校の方でやっている学童保育の方には援助金が入っているんですが、その他自主保育、自主学童保育のほうに援助金があるかという突っ込んだ話になるんですが、以前はあったみたいなんですけど、前市長の時に自主学童保育の援助金はなくなりましてわくわくプラザに統一されて、その後ずっとそのままできて、自主学童保育の何軒かは潰れて、昨年の 3 月にも川崎区の施設が潰れたと聞きました。実はうちの上の子である小学校 5 年生の子が通っている学童保育が経営が厳しいというか潰れそうになっていまして、市に話したり署名をやってほしいと言っていますがなかなかなくて、福田市長になってからちょっと風向きが変わって、今度国の方針でも学童保育の方を、小一の壁小四の壁を取り除こうということで頑張ろうということになっているんですけど、前回の説明の時に自主学童保育も基準とかに入るのか、お金も含めどうなっているのかなと思ひまして、意見というか質問です。どうもありがとうございました。

陶山さん：盲ろうの陶山と申します。バス利用券についてお話したいと思います。

今は1枚500円のバス利用券をいただいておりますが、今後は200円、300円と下げてください枚数を増やしていただきたいなと思っております。どうしてかということ、タクシー料金、例えば800円と言われた場合に、現在の利用券を2枚渡すことになります。そうすると1,000円ですね。ですがお釣りの200円というのは戻ってきません。それを考えると、川崎市からタクシー会社に対して実費よりも上乗せ部分を支払っているということになるわけです。それはもったいないなと思います。それから、今までタクシー利用券を80枚もらっていましたが、それを10枚から20枚、ちょっと増やしていただきたいなと思っております。なぜかということ、タクシー料金も値上げされたんですね。なのでもう少し多く欲しいという盲ろう者たちの声がたくさんあります。それとパス無料の定期券というの也有ります。けれども働いている人は通勤費ということで会社からいただいていると思うんですね。ですので、予算関係、その辺を考えて頂きたいなと思っております。または、盲ろうの70歳以上の方、そういう方たちにも使えるように定期券を使えるようにしていただきたいなと思っております。また、足が弱くて坂道など登れないという方もいらっしゃいます。高齢の人たちに対する配慮、そういうことも考えて頂きたいなと思っております。また、盲ろう者が自立して社会参加ができる。そのような対策も考えて頂きたいと思っております。以上です。

市長：まず森田さんから、学童保育についてのご質問がございました。学童保育、わくわくプラザができる前は市の直営でやっておりましたので、いわゆる補助を出すということがあったわけではなく、もともと市でやっていたということがわくわくで全児童を対象になるということが始まりましたので、そういった意味ではそこで援助というか助成はなくなったと理解しています。今度の新しい基準でどうなるのかということですが、これはわくわくプラザが対象になるということです。ですから、自主学童については対象にはなりません。一方で、私は自主学童、わくわくができて自主学童の方に移行されてもう10年くらいになっているのでしょうか。そういう団体とも私も相当現地も行かせていただきましたし、意見交換もこれまで相当長くやってきていて、わくわくプラザだけでなく、違う選択肢を自主保育という形で求められていると言う気持ちも非常によくわかっています。どういった形で、自主学童といってもいろんな形態がある事は森田さんもよくおわかりだと思っておりますが、いわゆる民間事業者、株式会社がやっている学童保育もあれば、あるいは本当に非営利でやっておられるところもありますので、そこをどういうふうに分けてやるのかと言うのは課題になっていますが、必要性もあるのだろうと理解しておりますので、どういう形で応援できるかなと言うのは今検討しているところです。

陶山さんからお話いただいたタクシーチケットをですね。500円券をお配りさせていただいているということですが、これを300円とかもう少し小口にというお話だと理解いたしました。これは、去年の4月に、今まで1枚660円だったものを500円にして、その分枚数を増やしました。使い勝手が良いように変更させていただきました。それからご指摘にあった、実費よりもタクシー会社に多く払っているんじゃないかというお話ですが、そんな事はございません。かかった分だけ後でタクシー事業者の方にお支払いするという形になっておりますので、そこは誤解なきようにということでございます。それと、例えば800円のところ500円のチケットを2枚出したらおつりが返ってこないということですが、先ほど申し上げたようにタクシー事業者には800円分し

かお支払いしません。あくまでもこれは重度の障害者の皆さんに外に出ていただくことを支援していくための助成ですから、800円かかったところはできれば500円券を使っていただいて300円の部分は実費で払っていただいて、数多く出ていただく。そういった使い方をしていただければいいなと思っております。それからバス券の話がありましたけれど、仕事をされている方にあげているのではないかというのは、私の理解が違うかもしれませんが、軽度の方は仕事に行けるということで、バスの特別乗車証みたいなものは発行させていただいておりません。ですから、私の質問の聞き方が悪かったかもしれませんが、ご指摘のようなところはないなと思っております。昨年、券の発行のあり方というものを考えさせていただいたので、うまく活用していただきたいなと思っております。以上です。

B 道路・交通について

猪口さん：猪口と申します。溝口駅前の地下駐輪工事について市長にお聞きしたいと思ってまいりました。

今、東京も含めて建設ラッシュになっているんですけれども、建設工事が安全を期するために、工事事業者がどういう目的でどの期間どういう工事をします、日程も1週間単位で、今日は何をします明日は何をします、そういうことが当たり前に表示されています。そういった関係で、駅前がどういう工事をされているのか見ましたら、その説明の書類は、工事の認可を受けましたということだけがありまして、業者の名前だけなんです。工事がいつまでやるのかなど基本的な情報が分からないので、今日の方でお尋ねしたいと思ひまして、昨日、どうなっているかなと再確認しましたら、きれいな立派な看板が出ているんですよ。しかも詳細に申しますと、施工業者名、完成予想図、事業計画内容、施工体系図、技術担当者の写真付きの台帳と、これ以上立派な事はないというくらいやっているもので、これは最初から管理体制を明確にしていきたいということと、せっかく市民が使う場所ですので、どういう完成図になるかなということが知りたいですね。南側のデッキと同じように、バスの停留所の上にも何かできるのかという完成図が全然見えません。そのようなことを知りたいと思ってまいりました。

坂井さん：大きく交通のこととお話をとったのですが、時間がそんなにありませんので、その中の1事例についてのみ話をすることにいたしました。

市長さんは溝口は歩かれたことがございますか。

市長：はい。

坂井さん：そうですか。実は駅の向こう側、北口ですね、ポレポレ通りというものがございます。ここは実は無法地帯でございます。その事例を申し上げます。一つは放置自転車です。この道路はできて10年になるんですが、当初から自転車を置かせているんですね。歩道に。ですから今日までそれがずっと続いていて排除できない。駐輪場の問題もあると思います。整理員がきて整理してい

く傍からどんどん置いていく。床に禁止というものが貼っているのに、その上に自転車置いていく状況になっています。ほとんど無法地帯です。2つ目、自転車の逆走です。駅の方からイトーヨーカドーの方に向かって一方通行なんですけど、向こうから入ってくるんですね。そうするとこちらが自動車が入っていきますと、向こうから、例えば子供を後ろに乗せて突っ込んできます。車はとも走れたものではありません。ですから、つい車が止まってしまうという状況になっていて、これは知らない方が多いのではないかと思います。一方通行は自転車でもダメなんだということが分かっていないんです。

井上さん：井上です。

1つは、毎日柿生の方へ行く用事がありまして、バスで南口から柿生まで約50分くらいかかるんですが、現在ラッシュの時に1時間に2本、早い時間は1本、遅い時間も当然ですが、だいたい2本走っているんですね。これをぜひ1本くらい増やしていただければ非常にありがたいんです。何故かといえば、小田急に乗り継いでその先に行く人も大勢いますし、柿生には高校もあります。大学もあります。病院もあります。王禅寺のレジャーランドですか、あれもございます。そういうことで、できれば1本増やしていただければ幸いです。それともう一つは、川崎も大きくなりましたので、コミュニティバスを是非1台ないし2台。台数はわかりませんが、バスを走らせていただければ、高齢者の足になるのではないかと考えまして提案したいと思います。以上です。

市長：まず猪口さんからのお話で、溝口の駐輪場の件で、すみません、完成図だとか予定が書いてなかったとかというのは、私は現場を確認しておりませんので、いつそれが設置されたのかという事実確認ができてないものですから、もし規定されているものができていなかったということであれば、確認した後しっかりと注意して、今後こういうことがないようにしたいと思います。今現在はあるということでございましょうか。そうですか、ありがとうございます。これは次の坂井さんの話にも関わってくるんですが、溝口周辺は駐輪場が足りないという声をずっといただいて、ようやく来年の3月末を目途に完成させるという計画になっています。それに向けて今やっているところで、そこに1,900台の駐輪場ができるということですから、ずいぶん状況は緩和されるのではないかなと期待しておりますけれど、若干工事のところで、今、その土壌が予想以上に水分が多いということになっておりまして、若干時期が伸びるかもしれないという可能性を聞いているところです。まだはっきりしませんので、いずれにしても早期実現に向けてしっかり取り組んでいきたいと思っております。本当に言われるように、いつどんな工事をやって将来どういうものができるのかというのをしっかり見せていくというのは、利用者の皆さん、周辺の皆さんも期待と同時にご迷惑をかけていることもあるでしょうから、しっかりと表示していくことも大切だと思っておりますので、しっかり努めていきたいと思っております。

坂井さんのポレポレ通りの状況ですね、僕もポレポレ通りは時々歩きますので状況については承知しているつもりです。放置自転車対策ですね、先ほどの話もそうですが、川崎北部の多摩区、麻生区、宮前区になるとそんなに放置自転車という問題は無いのですが、溝口以南の方になりますと、やはり平地が多いものですから、自転車を利用される方が非常に多い。買い物するときなど生活で自転車がなくてはならないということで、どうしても駐輪場が追いつかないということになってし

まっているのが現状です。これはいちごっこになってしまっているんですが、しっかりとルールを守っていただく。やってるやってるではいけないんですが、これからはしっかりと努めていきたいと思っております。それからもっと深刻なのは自転車のマナーの話でありまして、ご指摘の通り自転車のマナーが非常にひどいという事は、市長への手紙他いろんな会合に行ってもどこでも言われます。交通事故自体は減ってきているんですが、自転車関連の交通事故はものすごく増えている現状で、危機的な状況だと思っています。私は警察の皆さんとお話する機会もあるんですが、行政も警察も自転車のマナーというものに、子供の教育もしっかりやっているつもりですが、もっともっと大人も含めてマナーアップできるようにしっかりと頑張っていきたいと思っております。ご指摘ありがとうございます。

井上さんからの柿生駅への増便ということでありまして、今は市バスにこういうルートを増やしてほしいとか新設して欲しいというご要望がたくさん、溝口柿生間だけでなく様々なところでいただいておりますので、これは事業である以上採算性というものは大変重要な観点でありますので、そういったことを総合的に勘案して判断しなければいけないということです。ご意見として承らせていただきたいと思います。それからコミュニティバスは大変重要な課題でありまして、私もたびたび議会でも答弁していますが、これから川崎も急速に高齢化、まあ全国から見ると若い都市ではありますが、これから一気に高齢化してくるとますます既存のバス路線だけでは対応できない所が出てきます。なのでなるべく、採算性という問題もありますけれども、それだけでない部分というのがありますので、しっかりと応援していきたいと思っております。実は今月も、多摩区の長尾地区においてコミュニティバスの試行運転が始まります。このように、今までより少し進んだ形でコミュニティバスを応援しようと思っております。しかしそれはあくまで住民の皆さんがまず立ち上がっていただくということが必要です。最初の立ち上げの段階から最後の走るまで、各段階で市はしっかりとサポートしていきます。ですからもし住民の皆さんがここは絶対に必要だと立ち上がっていただいて協議会みたいなものを作りたいということであれば、その立ち上げの段階からしっかりと応援させていただきたいと思いますので、もしそういうことがあれば地元で是非声をあげて頂きたいと思っております。以上です。

C まちづくりについて

沼田さん：隣の家の新築工事に伴い、工事業者が、高さ2メートル幅約7メートルのよう壁を、相手敷地内で6.5メートル壊し、こちらにわずか50センチの壁が残るような造成を、こちらに2度の土砂崩れを起こしながら行いました。非常に不安になったので業者に残った壁の安全性を確認すると、そちらの敷地の問題なので知らないと言われました。事前の説明もなく無計画すぎるので保全を強く求めると、業者の設計士に確認のうえ保全する形となり施工図を出していただきました。その施工図を知り合いの土建屋さんにみてもらい、安全性を確認した上で工事を行いました。しかし、実際は鉄筋は少なく、記載のない部材の入るなど図や説明と違うので、図や写真を建築士に見ていただいたところ、どの建築士が見たところでこの施工図でこの結果にはならないと言われました。現在業者には是正を求めています。素人相手に言い逃れをしている現状で非常に困っています。

建築知識に乏しい一市民が対抗するのはとても困難です。道路に面する約 2 メートルのよう壁、事は公衆の安全、安心して通行する権利に及び、将来にわたり脅かされると考えられます。施工図と違う工事を行い、セメントを流し土で埋めてしまえば分からないなどとするのはあまりに無責任なことではないでしょうか。この業者は市内各所で建築工事を行っており、他は問題ないのでしょうか。隣の工事だけでも届け出の怠りが複数あります。そこで、市長にはこの窮状をぜひご理解頂き、対応をしていただきたいとともに、このような被害がこれ以上市民に及ばないように、小規模住宅開発でも総合調整条例的な規制をしていただき、専門知識のない市民でも安心安全に暮らせるような市政運営をお願いします。以上です。

石井さん：石井です。よろしくお願いします。

私たち高津区野川の住民は、第 3 京浜道路の騒音、振動、大気汚染にずっと苦しめられてきました。今年の 6 月 9 日には、私たち住民の猛反対にもかかわらず、川崎市は隣接する高津区野川中耕地の宅地開発工事を許可しました。土砂災害警戒区域内のこの無謀な宅地開発に対して、われわれ住民は市議会や市長に対して計画の根本的な見直しや工事の差し止めを強く求めましたが、住民の願いはことごとく無視され開発は許可されてしまいました。開発業者は崖地の樹木を伐採し、その後この崖地の開発工事は中断され、放置されたままになっています。崖下の住民にとっては危険な状態が続いております。そこで市長にお伺いします。1 番。市の職員に開発許可の理由を尋ねても、法令に従って適切に処理していると異口同音に答えております。それ以上の説明は聞けません。土砂災害警戒区域内に指定されても建築行為の制限はないという信じ難い法令に従っているだけだと思います。市長をはじめ職員は、地域住民の生命財産健康を守り、住民の要求や期待に応えて信頼される市民対応が必要と思いますが、市長はどうお考えですか。2 番。開発業者の 1 人は、ここが土砂災害区域と知らなかったと主張しています。住民には開発工事の中断、あるいは放置の説明は全くありません。これではまともな開発工事は期待できません。開発業者の指導は現在どうなっているのかお聞かせください。市長は開発現場を視察し住民の声を聞き安心と安全を住民に届けるというお考えはありませんか。

大好さん：野川の大好です。

石井さんと一部ダブるところがあるんですが、先ほどまちづくり委員会での継続審議中に宅地調整を許可してしまうという問題で、今年の 5 月 27 日に議長宛てに陳情書を提出しました。これは 11 月 27 日にまちづくり委員会で初めて審議されたんですが、審議継続となってしまった。その後まちづくり委員会は 1 回も開催されておられません。これが今年の 5 月に、多分市長から権限委譲された行政の方が許可したんだと思うんですが、最終的には市長が許可している。ということは、市議会のまちづくり委員会というのは川崎市の最高機関である。議会は。ということになると、それを無視して市長は許可していいのかという問題が 1 つ。あるいはその内容を把握、審議中でありながら市長は何もわからないうちにハンコを押してしまう。これが我々からしたら苦情の題であるということで、これを何とか審議中は許可しないでほしい。元に戻してほしいというのが我々の願いです。

高橋さん：高橋といいます。

今前に2人言われたことと関係することなんですけれど、某事業者から仮称高津区野川プロジェクトなる宅地造成工事のお知らせが、平成25年4月29日に投函されて、その後住民は市議会に陳情をし、市議会で継続審議ということで現在は中断しておりますが、ここまで行政は市民の声を一向に聞こうとしないんです。他人の土地で何をしても中止にさせる事は出来ない。皆さんが買った時は安かったでしょう。6メートルの道路を造成し市に帰属するからそれは問題ない。造成して12棟ができれば市に税金が入るから。またはあなたがそこに住んでいるからということで、話は拒否されています。また、工事説明会で事業者は、我々は住民の事は全く考えていません。造成していいものを販売すればいいです、と。私たち住民は啞然としていましたが、私には行政の考え方や事業者の考え方が全く同じ方向を向いているような気がします。また、事業者の味方にさえ思われることが多々ありました。私たち住民は現在も反対運動をしていますが、少なくとも住民の生活が第一です。

下村さん：同じく野川中耕地1,434の宅地開発の件ですけれど、今の状態で工事が進められますと、本当に日当たりが悪くなる事は明らかになっています。今現在も、我々の家は1階はほとんど陽がささない状態です。その状況のままで盛り土をした上に住宅を建設した場合、約15メートルくらいの高さになると思います。そうすると、南側の日照時間が短くなりまして、我々は暗い闇の中で暮らすことになります。建築設計の再度の見直しをよろしくお願いしたいということです。以上です。

大友さん：大友です。前の3人と同じですけれど、今開発住宅の建設が進めていますが、地盤等の調査もまだ行っていません。そういう状態です。勾配の厳しい土地ですので、地盤沈下が心配です。業者は市の許可を取ったと言っていますが、現場を見て市は許可を出すのでしょうか。書類上の判断ではなくて、市長の言う現場主義で再度許可を考えていただきたいと思います。このまま大型車両等の工事が進んでいくととても危険な土地ですので、そういう点はよく調査してもらいたい。これからの調査に期待しておりますのでよろしくお願いします。

市長：まず沼田さんのお話ですけれど、沼田さんのお隣の家が、個人宅ですね、改築をされた時に、壁が50センチ離れたところで、もともとの工事予定のものと違う施工がされているんじゃないかというお話ですね。なるほど。まずご提案の総合調整条例のようなものを個人の宅地で、総合調整条例は500平米以上ということになっていますけれど、それ未満の所でも適用するようにというご提案でよろしかったでしょうか。500平米の範囲と決めているのは、建築、施行する側、隣のお方も含めてですけれど、過度な負担になってはいけないということで、一定程度の範囲をどこにするのかということで、今500平米ということにさせていただいております。沼田さんからの訴えを聞いている中で言うのも恐縮ですが、概ねこれまでの総合調整条例の運用の中からはこのくらいが適当なのではないかなという思いを持っております。いずれにしても、こういった個別の案件ですね、ぜひ高津区でも毎週一回は建築だとか開発に関する相談という窓口がございますので、ぜひそういったところをご利用していただいて、知識がないから不安だというお話あると思いますので、

是非ご利用いただければと思っております。市のほうに相談はされてますでしょうか。ぜひそういったものを使っていただければと思っておりますが、いわゆる隣の方とのお話ですね。少し状況を把握させていただきますけれど、また個別な対応をさせていただきたいと思います。

それから野川の件で5名の方からお話をいただいて、同一の内容ということで理解をさせていただきました。まず現地に行ってるかという話がございませうけれど、私は行っておりませんが、担当の職員が現場確認をさせていただいて、地盤のことについても調査をさせていただいているということです。それについては適正な確認をさせていただいていると聞いております。それから法令の話なんですけれど、法令違反でなければいいのかとか、法令に準拠していれば開発許可というものはしなければならない規定なんです。ですから、基準をクリアしていればしなければならないというのが私の立場です。ですから、まず法令に違反しているかないかということがございます。法令に違反しているものは当然許可を下ろさないですし、法令に従っているのであれば許可しなければならないという立場です。恣意的な判断かできる立場ではございません。それがあある意味法治主義とか、そういう状況になっているということをご理解いただきたいと思っております。土砂災害警戒区域の中で開発行為が行われるということなんですけれど、開発、建築に関する規制というものは法令上ないんですね。ですから、例えば特別警戒区域という物に指定されますと、一定の開発の許可と言うものに制限がかかってくると伺っておりますが、川崎市内には無いんです。特別警戒区域は。これは区域に指定するかしらないか。特別地域ではなくても、指定するというのは、県の判断になります。750カ所以上の地域が川崎市内にあるんですが、指定はすべて終わっております。特別警戒区域については川崎市内には1カ所もありませんということで、法令上開発あるいは建築に関する規制は一切受けないということになっているのが今の現状です。その中で判断ということになります。そういった皆様のお気持ちは非常によくわかるんですが、法令に違反していない以上許可を下ろさなければならないという立場にあるということをご理解いただきたいと思います。それから、今後実際に工事が進むということになりますと、総合調整条例に基づいて工事協定という話になってくる可能性があると思います。その中でしっかりと業者の方と、影響が出ないように、例えば工事によってひび割れが入ったとかそういった協定を結んでいただく。そういったことに対する中立的な形のサポートとか、助言というのは市でもしっかりとさせていただきたいと思っております。そういったことに基づいて、繰り返しになりますが、法令上に問題がなければ許可しなければいけない立場にあるということをご理解いただければと思います。以上でございます。

鴨下さん：新作5丁目在住の鴨下です。よろしくお願いします。

東証一部上場企業のゴールドクレストという会社は、新作5丁目でも市内でも全国各地でも脱法行為や周辺住民無視のマンション建設を強行しています。新作5丁目の建設計画をめぐっては、川崎市議会ですべての政党が賛成して改善指導を求める請願陳情が、この8年間に6回も趣旨採択されていることにもこの問題の本質が示されていると思います。ところがゴールドクレストは、今、地元自治会と交わした公園を作るという約束を破って新しいマンションの建設を着工しようとしています。そこで福田市長には、是非市民派の市長として、企業は法律さえ守れば後は何をやっても良いわけではなくて、住民との約束は守らなければならないこと、約束したことを約束してないな

どと言い張る事は川崎では認められないということをぜひ市長名で通達していただきたいというのがお願いです。また住民と行政とゴールドクレストの3社で話し合う場を再び設定していただき、強く約束を守るようを指導していただきたいと思っております。ぜひよろしくお願いします。

稲葉さん：稲葉でございます。

いまの鴨下さんの話でも同じでございますが、この企業は公園の約束を不履行にしようとしているんです。約束をどういう風になされたかといいますと、市は民民のことですとしておりますが、私どもの認識といたしましては、1万平米の中の3期工事がございまして、今は3期目です。2期工事の時に総合調整条例の中の約束である見解書と要望書の中で、見解書の回答なのですから、私どもは総合調整条例の中の手続きであると理解しておりました。市の見解は違っておりますが。とにかく、公園は造らないということが分かりました。一部上場企業でございますこれは。一部上場企業の部長名で出された見解書回答も全くなかったということにはできないはずです。私どもが出しました請願の審議の中でも、議員の皆さんは、なかったという事は無い。約束はあったでしょう。約束の紙がございまして。それはおかしいという見解でございます。ともかくもう造らないという立場は全く変わっておりません。ここでお願いがある事は、総合調整条例の中でないとしても約束は約束でありますから、約束を簡単に破るような企業を野放しにしていけないということが私ども住民の思いでございます。ですから、中立の立場だという事ではなく、中立で待っているだけではなく、少しは市民の感情に沿ったというか要求に沿ったものを行政はやっていただきたい。ですから話し合いの場を設けて、市長にはもう一度ご助力をお願いしたいと思っております。よろしくお願いします。

小林さん：2人の方からお話があったのでその内容がダブるといけませんので話しませんが、ゴールドクレストというのはほとんど住民の意見を聞かないということで、このままではどんどん言いなりになってしまうということで、自治会も入って自治会全体で取り組もうと行いました。のぼり旗を100本くらい立てたりいろいろやりました。最後の公園を造る造らないのことにしましては、2期工事を始める前に、最初には努力します。公園を造る要望に対して努力しますという話だったんです。これでは住民は納得できないということで、納得できないという返事を出しましたら、今度は回答に応じますと言うことで出しています。ゴールド社は2つの文章があることが分かっているんです。それでも努力する方しか認識しないで、要望に答えますという事は言っていないということなので、先程言いましたけれど文書もあるんですけれど、それに対して全く応じないと言うことで、趣旨採択も行っていますけど、今後市長にいろいろやっても進まないみたいなのでもう一つ言いますけれど、建築許可というのは民間が出すんですね。我々勉強不足でそのところは知らなかったんですけれど、民間に対して市は何も言えない。法を守っていれば言えないということになっているんですね。その後8ヶ月経ったっても進捗しないので、ぜひ市長のほうから一言お願いしたいと思います。

市長：ありがとうございます。これは非常に難しい話です。今区長から見せてもらいましたけれど、市からゴールドクレストの社長宛てに、環境局長とまちづくり局長の2人の連名で、今年の

8月21日に、近隣住民に対して丁寧に説明する誠意ある対応を図るよう指導するという文章を出させていただいているということですが、本当に誠意ある、仮にも一部上場の企業でありますので、ぜひ守って頂きたいという思いがありますけれど、約束事が、民民の話じゃないんだという話ですけれど、私ども川崎市行政と当該の企業との約束であれば私どもが当事者になるんですが、約束自体がゴールドクレスト社と住民の皆さんという形の約束なので、法的にどう関われるのかということとはなかなか難しい面があると思います。

稲葉さん：総合調整条例は建築業者と住民が対立したら困るからということですよ。

市長：そうですね。そういう意味で両局長からの指導という形でやっております。それはあくまでも総合調整条例上のということでありまして、そこがある意味法的拘束力を持って何かを止められるかという、そこはあくまでも総合調整条例上の話になってしまうということでもあります。そこでお話があったように、今段階とすると、建築許可がどうなるのかという段階に入っているんですが、許可は民間にも出せるわけなので、その状況がどうなっているのかと今私どもが把握する状況ではありません。もし民間の建築確認会社に出て、それが通って許可が下りることになるとその通知が川崎市に来るという段取りになっていますので、今現在どういう状況にあるのかというのは私どもは実は知り得ていないという状況であります。ですからこの段階で出来ること、法的に出来る事というのは、すごく残念な言い方になってしまいますが、本当じゃないんです。ですから、建築許可が下りることになると、そのまま工事が着工されるということになります。そこに法的に何か川崎市ができることというのは、法令上できないものですから、その難しさがある。お気持ちは非常によくわかりますけれど、できるという法的根拠がないというのが、先ほどの野川の話と似たような話になってしまいますが、難しさがあるということでございます。これは私が言うのもなんですけれど、民民の話で約束の履行不履行のことについてというのは、例えば裁判だとかなんだとかという事は、ただ総合調整条例上の話になってしまいますのでなかなか何をもってということになるかと思えますけれど、そういう状況にあるということ。お答えになっておりませんが、市に出来る事は、現時点で、はっきり言ってないと言ってしまったほうが良い状況にあります。

稲葉さん：この件をご理解いただいてもう一度再考していただきたいと思います。

市長：再考しても、先ほど申し上げた通り、できることが法令上ない段階で、私が何度再考してもできることがないんです。法令上。

稲葉さん：法令上ということではなくて、行政として出来る事は、例えば業者に約束は守るべきだと言うことくらいは。

市長：それは今までもやらせていただいております。

稲葉さん：そういうことを求めています。ありがとうございました。

D 個別意見

平山さん：平山といいます。今はアルツハイマーを完治させる薬はないんですけれども、後見人は昭和 5 年生まれの母を介護老人保健施設に入所させて手術を行い、椅子に縛りつけていました。死んだら後見人に支払わなくてはなりません。1 年以内に健康にしてください。心配です。また、弟の介護的な事でほとんど寝ていられません。私が死んでしまいます。以上です。

吉田さん：千年の吉田と申します。

13 年前から江川せせらぎを流れる水が高栄養状態の下水処理水のため、当初から現在に至るまで発生したヘドロからの悪臭や腐敗したヘドロとなった藻が浮遊した状態が続いております。その対策として、高圧洗浄が行われておりますが、毎年市はいくらの費用を出しているのでしょうか。これが 1 つ目です。そして一向に改善がみられておりませんが、効果判定はいかがに考えているのでしょうか。水路の大腸菌数はどのような状態になっているのでしょうか。森と江川せせらぎネット等の市民ボランティアに水路の管理を任せてみてはいかがでしょうか。という提案です。

市長：平山さんの、何とお答えしていいのか、ご質問の趣旨が少し分かり辛かったものですから、ただ平山さんが今大変な状況にあるという事は理解させていただきました。お母様が今大変な状況で弟さんということですので、お見舞い申し上げますし、是非回復されることを祈っております。

それから吉田さんからお話いただいた江川せせらぎの事についてですけれども、細かい数字については、どう改善しているのかというのは後で[担当の方からお答え申し上げます](#)のでぜひ聴いていただきたいと思います。それと吉田さんは車座集会の常連ですので、おそらく EM 菌の話なのかもしれませんが、吉田さんが取り組まれている EM 菌での河川の浄化とか水質の浄化というのが、繰り返し私も申しあげていると思いますが、定量的な効果というものはお互いに共同研究みたいなことをさせていただいていると思いますので、そこではなかなか効果が見られないということですので、仮に、先の話というのが、推測ですけど、EM 菌をという話も、現時点で難しいなと思っております。先程のご質問の数字については、担当の方から後ほどお答えさせていただきたいと思います。以上です。

平本さん：蟹ヶ谷から来ました平本です。

皆さん切実な訴えをされているのに私はちょっと雰囲気が違うんですけど、マンションに越して 5 年になるんですけど、分譲マンションなので住んでいる方との付き合いがほとんどなくて、私は越した時に、60 世帯皆さんに自己紹介を書いて回ったんですけど、ほとんどいらっしゃらなくてお手紙で終わったんですけど、その後やはりつながりが大事だと、3・11 の後だったんですから、そういう思いを書いて、お茶を飲みながらお話ししませんかと言ったんですけど、電話いただいたのが 1 人、来ていただいたのが 1 人だったんです。そういうのじゃちょっと嫌だな

あと、千軒家から来たものですから、千年の方は割と繋がりが深くて婦人部なんか入ると楽しいんですけど、蟹ヶ谷はマンションが多くて、付き合いをしたくないからマンションに住んでいるという方もいらっしゃるくらいなので、孤立死とか虐待とか、脱法ハーブを吸っていたり爆弾作っていても分からないですし、そういう状況のマンションの孤立が、お互いに何も分からない顔も分からない人たちがいるのをもう少し、個人情報ややはりストップさせていると思うので、マンションの中に、20世帯に1人くらい、やはりそういうのをつながっていけるような、担当されるような方を作ってマンション同士も共有するように、何ヶ月かに1回皆さんで話をしているような情報を交換できる、そういう風にしてもっとふれあえるような、小さい子供はみんなで育てていこうというような温かい街にしていきたいなと、蟹ヶ谷に住んですごく思っておりますので、そういうのは私1人で動いても全然ダメなので、市でそういう方を選んでいただいて皆さんとつながっていけるような街にしていきたいなと思っております。

吉岡さん：吉岡でございます。

地域の問題とは離れてしましますが、現在国の借金が1,100兆円もあるというわが国の財政危機の中では、国とか地方とかを問わずにあらゆる支出にメスが入るべきだと思うんですが、最近地方自治体の方で議員定数だとか報酬の削減に目を向ける動きが強くて、名古屋市では市長が議員定数と報酬の半減を提案しまして報酬の方だけが実現したようでございますが、もともと欧米では地方議員というのはボランティアの色彩が非常に強くて、人数も少なく報酬も少ないです。アメリカでは平均年間400万と聞いておまして、イギリスやフランスでは数十万くらいの報酬。ですからほとんどボランティアということです。川崎市は確か現在60名で収入が月額83万くらいだと思いましたが、報酬のほかに政務活動費とかがありますのでおよそ報酬の倍近くになるのかなと思ったりしています。それから川崎市は昨年の7月の段階でラスパイレス指数が112でございまして、20の指定都市の中でトップです。これは川崎市の職員が国家公務員よりも12%くらい高い報酬を得ているということになるわけですし、川崎市の議員定数だとか報酬ですとかあるいは職員の定数削減あるいは報酬の削減、そういうところを検討していただきたく提案しようと思った次第です。以上です。

市長：平本さんありがとうございました。蟹ヶ谷に引っ越されて凄く積極的な取組をしていただいていることに素直に感謝申し上げたいと思います。私も集合住宅に住んでおりますのでわかるんですけど、隣に誰が住んでいるのかなかなかわからないという状況が蔓延しているというのに、なるべくそこでもなんとかつながりを求めてということで、住民同士でいろんな工夫をして、一緒に自治会主催のお祭りに行こうとか呼びかける人たちが自主的に取組をして少し顔が見えてきたということもありますので、平常時は誰が住んでもいいやとなるんですが、いざ災害になったときに本当に世の中1人じゃないんだと、お互い支え合って生きているんだということに気づくと思うんですね。そのことを私はこの車座集会だけじゃなく、今、川崎市の10年計画の総合計画というものを作っているときに、市民検討委員会とって無作為に来ていただいた市民の皆さんと色々話すんですが、意外と子育て世代もシニア世代とつながりを求めているたり、あるいはその逆も然りだったり、意外と地域につながりを求めている方というのは、表面上見えてないけれど実はあるとい

うことに気づかされています。表面上出ていないんだけど飢えていると言うことも感じる時って多々あるので、ぜひ平本さんみたいな活動をして下さる方が1人でも多く増えてくださるということがいい街になっていくんだと思っていますので、これからもお願いしたいと思います。正式に聞いているわけでありませんが、議会の皆さんでも、自治会町内会の加入促進条例というものを作ろうじゃないかという動きをされているようです。それは自治会町内会に入らないという方が増えてくると、いざの災害時だけではなくて、町内会自治会の役員の人たちのほか、民生委員の人たちだったり保護司の方だったりいろんな形で地域の中に関わってくださる方というのかだんだんだんだん少なくなってきたんですね。みんな町内会役員やりたくないという人達が増えてきて本当に地域が維持できないということに危機感を持っています。ですからこういった議会の動きも非常にありがたい動きですので、市民の皆さんと行政と議会とみんなで力を合わせてつながりを作っていくということにしっかりとやっていきたいと思っております。市の職員が、あるいは市の担当者がそのつながりの役をやるというのは、これはまたとてもとてもできないというか行政改革ともっとも逆行することですから、住民で出来る事は住民でという形でつながりを作っていただく。平本さんの取組は本当にありがたいと思っております。ありがとうございます。

吉岡さんのお話で、議員の方の報酬だとかというお話は、議会は議会で、日本の地方自治は2元代表でありますので、私を始めとした執行機関と議会というのは2元代表ですので、議会のルールについては、報酬も含めて定数も含めて議会の皆さんが決めることですので、そこは2元代表の一方を選んでいる有権者の皆さんがどう判断されるかということを経済にお伝えいたしたいと思っております。それからラスパイレス指数の話をご指摘いただきました。実はこのラスパイレス指数の事は語ればすごく長くなるので、ぜひ、後ほどペーパーでもご説明させていただきたいくらいなんです。これは国のトリックがすごくありまして、実際は国とは遜色ないどころか、かなり国と比べてというのがあるんですが、その計算方法だとか職員の構成だとかという事を見ると、国の方がすごく有利な数字になっているんです。ですからものすごく、あの数字が出るたびにまた国にやられたと思うんですけど、しっかり現状と正確性を見ていただきたいなと思っているくらいです。この12年間で職員の数というのはずいぶん減りました。3,000人を超える職員削減をやって約20%くらい減ってきています。これからは人口が増えている中で職員数も減らしてきましたから、相当厳しいところはあるんですが、引き続き今年も来年も二箇年で300人の削減するという事で、なるべく事務も効率的にということで取り組んでいきます。引き続き人件費もそうですけれど、職員の数というものも削減して効率的に市民サービスが提供できるようにという体制をやっていききたいと思っております。以上です。

(3) 総括

今日はありがとうございました。特にマンションや住宅の開発の関係で多くの皆様からご意見をいただきました。法令上の問題といっても気持ちはすごくわかる部分の中で、できることというのはこれだけ少ないという事は、本当に皆さんのご期待にお応えできないことが私自身としてももどかしい思いがしますが、このことについても法令上の問題があるということも、参加者の中でも残念だけどそういうことなのかと思われた方もいるんじゃないかと思っております。あくまでも総合調整条

例の範囲内でありまうけれど、しっかりとこれからも運用していきたいと思っております。

それから、なかなか私どもがやっている施策が伝わっていないということを多くのところで感じるところがあります。いろんなご意見いただいても、あ、それ市でもうやっていますということがありまして、いかに行政が皆さんに伝えられていないんだということが課題であると思っておりますので、ただペーパーを作ってパンフレットをばらまくということよりも、ちゃんと届かなければいけない情報を提供するということにしっかりと心して、私はじめ職員一同取り組んでいきたいと思っておりますので、これからもいろんなご指導頂ければと思っております。

いずれにしてもまちづくりを行政でやっていくことよりも、自分たちの街は自分たちで作っていくという感覚でやらないといい街は出来ないといつも思っておりますので、これからも皆さんの力をいただきながら、1 歩でもいい街にしたいと努力していきたいと思っております。今日は本当にありがとうございました。

<補足>

※以下の内容を、発言された吉田さんに後日お知らせしました。

- ① 質問：市は毎年いくらの費用を出しているのか

回答：年間約 1,200 万円の費用で実施しています。

- ② 質問：一向に改善が見られていないが効果判定はいかがに考えているのか

回答：水路に付着した藻などを除去するため、高圧洗浄等による作業を年 3 回行うとともに、調査・検討の結果、水路を乾燥させ藻類を死滅させることにより藻類発生の抑制に大きな効果が確認された水路の干し上げを今年度から全区間にわたり行っております。その結果を踏まえ、引き続き水路の干し上げ等の効果について検証を行ってまいります。

- ③ 質問：水路の大腸菌数はどのような状況となっているのか

回答：大腸菌群数としては、上流部 6.3 個/100mL、中流部 110 個/100mL、下流部 150 個/100mL です。(平成 25 年度) また、修景用水として再利用する処理水の水質基準は、国土交通省の「下水処理水の再利用水質基準等マニュアル」におきまして、大腸菌群数が 1000 個/100mL 以下となっています。

- ④ 質問：市民ボランティアに管理を任せてはいかがか

回答：江川せせらぎ遊歩道は、計画段階から市民の皆様の意見を取り入れるパートナーシップ型事業として進められ、現在も地元町会単位で管理運営協議会や愛護団体として維持管理に協力していただいております。また、江川せせらぎ水路は、等々力水処理センターからの高度処理水を活用した下水道放流施設であることから、引き続き地元の皆様との調整を図りながら、上下水道局において維持管理を行ってまいります。